



# 善行中 学校だより

3月  
その2

2021年(令和3年)度  
藤沢市立善行中学校 学校だより  
校長 小林 秀夫

## 「旅立ちの季節」

3月9日(水)「第45回卒業証書授与式」を無事に行うことができました。あらためて「卒業」とは「生きるエネルギー」を生み出す、人生のターニングポイントだと思いました。そして「別れ」とは、前に進むためにとても大切なものだということを再確認できました。

それは卒業生代表「別れの言葉」から実感できました。3年間の思い出、同学年、後輩、職員への思い、そして保護者の方々に向けては

「・・・最高の仲間を産んでくださり、育ててくださりありがとうございます。この仲間と過ごした3年間は本当に最高でした・・・」と感謝の思いを。最後には代表として「・・・私はたくさんの思い出を持ってこの先の道を進みます。」と締めくくりました。

想定できなかつた社会状況や人々のつらい思いを受け入れる「受容する心の深さ」と周囲に対する「感謝の心」にあふれた言葉には感動しました。この「感謝の心」もまた「生きるエネルギー」の源です。このエネルギーを生かして旅立っていった卒業生の今後が楽しみです。



「整った会場」



「光プロジェクト」

そして現1・2年生にも期待します。この度の卒業式準備や片付けに取り組む姿は本当に素晴らしいです。積極的に動き、協力して、時には楽しみながらの姿が印象的でした。

いよいよ新入生を迎えて、新2年生、新3年生としてのそれぞれの役割を担う1年間が始まります。2年生の役割を頑張るとすばらしい最上級生になります。3年生の役割を頑張ると善行中を卒業してからも高く評価される人になれると思います。

すでに1年生は八ヶ岳、2年生は球技大会そして両学年とも実施した「合唱コンクール」など実行委員会を中心に行事を運営し、参加して楽しむ姿に成長を感じました。生徒会本部の「光プロジェクト」これも良いですね。私は帰宅時癒やされて駅へと向かうことが出来ています。

みんなの成長を応援しています。1年間ありがとうございました。

## 「1年校外散策」

3月15日(火)引地川親水公園方面に散策に出かけました。善行地区の素晴らしい景色をあらためて感じたのではないかと思います。



公園では遊具で遊び、昼食も取りました。この環境を大切にして欲しいです。

## 4月の主な予定

4/21(木)～27(水)家庭訪問

- 4/6(水)始業式・入学式
- 4/7(木)対面式・教科書配布
- 4/8(金)写真撮影・学年集会
- 4/11(月)部活動紹介
- 4/12(火)任命集会 身体計測
- 4/13(水)弁当(給食なし)開始
- 4/18(月)給食開始
- 4/19(火)学力・学習状況調査

## 「1年八ヶ岳野外体験教室」

3月10日（木）11日（金）1泊2日で1年生は「八ヶ岳野外体験教室」で冬の八ヶ岳の自然とスキーを堪能してきました。好天に恵まれ、むしろ暑い高原の冬だったそうです。

春スキーでは雪質がパウダースノウではありませんので、初心者にとっては苦戦する環境だったと思います。しかし、1日目の終わりにはほとんどの生徒がリフトに乗って滑り降りてくるようになり、最終日は全員で楽しめました。

教頭先生が送られた画像からは生徒たちの躍動が伝わってきました。



## 「2年球技大会」

3月23日（水）2年球技大会行われました。

体育館からは明るい歓声が聞こえ、グランドからは校外にも響くようが元気な声が聞こえてきました。

会場では点を取っても取られても歓声があがり、「ドンマイ」「ナイス」「ファイト」など前向きな声かけが広がっているゲームでした。最後はバトンパスではなくフリスビーパスリレーで盛り上りました。



リレー「ナイスパス」

## 「善行トピックス」その一 校内整備(壁塗り)

用務員さんが黙々と相談室前の壁塗りをしてくださり、廊下が明るくなりました。感謝です。

大切に大切に使いましょう。



## その二 善行中の春（白蓮と桜のコラボ）



白蓮と桜のコラボを観賞したいと思いつつ、寒暖の差に一喜一憂しています。春は確実に近づいています。新入生が待ち遠しい。

## その三 善行三者ふれ合いネットワーク

善行市民センターに学校の応援団「善三ネット」の幟には、本校、中司さんのスローガンが使われています。是非、見に行ってください。



## 「1・2年合唱コンクール」



3月1日（火）1年生 17日（木）2年生と期日を分けてですが「合唱コンクール」が開催されました。練習期間が短かったのですが、各学年とも「3年生になったら楽しみだなあ」と期待できる演奏でした。体育館が会場ですので音響的には不十分なのですが、心がこもったハーモニーはクラスみんなで創り上げた「たったひとつの音色」でした。

まさしく「心を一つに一人一人が輝く瞬間を」実現できたコンクールでした。

